
ワンダフルガール

闇子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンダフルガール

【Nコード】

N5519H

【作者名】

闇子

【あらすじ】

不登校生リツは、いつもつまらない日々を過ごしている。そんなリツにある日、剛たけと言う少年に話かけられる。最初は嫌がっていたリツだが、だんだん心を開きはじめる・・・

私と言う人間

アタシの名前はリツ。

一般的に不良とよばれる人種だ。

現在高校2年生。不登校生だ。

友達は、いない。作りたいとも思わない。自己中人間ばかりで、あきあきする。

学校と言う場所は昔からあまりすきではない。

まわりの子たちとはうまくいったことがない。

センコウとも対立してばかりだ。

いつも家を制服姿で出て、お気に入りの路地裏でタバコを吸うそのくりかえしの日々だ。

アタシくらいの年頃だと、彼氏が欲しいとか思けど、男なんていない。

男は単細胞で、暴力振るうしか能のない人間だ。アタシはそう思っている。

昔だれかがこんな事を言っていた。

人を愛するには、まず自分を愛さなきゃいけないよ。

自分の事なんて愛せやしないし、大っ嫌いだ。
人を愛すなんて真っ平ごめんだ。
そんな自分に嫌気がさす。

こうして、タバコの煙をみていると、
時間を忘れて自分の世界に入り込んでしまう。

この時間がずっとつづけばいいのに・・・
だが現実はそのはいかない。
あつと言つ間に時間はすぎてしまう。
あたりはもう夕方になっていた。

さて、そろそろ、家に帰るか。

あの五月蠅いババアのもとへ・・・。
まったく胸くそ悪い。

路地裏をあとにし、電車にのり、家にむかうリッ。
いつも駅を降りると気が進まなくなる。
途中、寄り道をする事もあるが、今日はまっすぐ家に帰ろう・・・。

家の前まで来た。あたりはもう薄暗くなっていた。

スナック花梨・・・

家に立て掛けられている看板にそう書いてある。

『今かえったよ。』

家の中にはいると、酒臭いにおいが鼻をつく。

こじんまりとした空間に、客用のテーブルと、椅子が 2セットとカウンターがドアからむかって左側においてある。

壁にはどこで買ったのか、誰が描いたのかわからない絵がかざってある。

あんなもの良く買ったな。

趣味悪い！

『お帰り今日は早かったのね』。

奥から化粧をして髪をアップにし、有名ブランドのスーツをきた母親が顔を出して言った。

見た目は綺麗だがとても腹黒くて、よく暴力をふるう。

それにしても、時代遅れのスーツだな。捨てればいいのに。

『お客さんから貰ったスーツだから捨てられないの』と母は言う。

『奥に夕食つくってあるわよ。今日はママ特製の肉じゃがよ。アンタ好きでしょう。早くたべちゃいなさい。』

何がママ特製だ。胸焼けがする！

母はあまり料理は得意ではない。いつも味気ない料理が食卓に並ぶ。そんな母が作る料理のなかでも、肉じゃがはおいしいものだった。小さいころは、よく作ってとねだったものだものだ。

でも今日はそんな料理も食べる気分ではない。

リツは机の上においてある料理に見向きもしないで二階へあがって行ってしまった。

リツの部屋は、階段をあがって目の前の部屋だ。

リツはいきよいよく部屋には行っていった。

部屋の床には散らばったCD、ラジカセ、雑誌が落ちている。とくに、見るわけでも、聞くわけでもないのに買ってきてしまったのだ。

まったく汚くて落ち着かない部屋だ。

いつもタバコを吸う 時はこの部屋にいるがほとんど居たことはな

い。

リツはカバンを投げ捨て私服に着替えて隣の部屋に向かった。

隣の部屋にはいると なにやら、縫いぐるみや、ママゴトセットや、おもちゃの救急箱、おもちゃの鏡台などが棚の上に大事そうにならんでいた。

リツは棚の上にならんでいた縫いぐるみを持って部屋の隅でうずくまった。

昔の事を思い出しているようだ。

昔、アタシには、3才はなれた妹がいた。

いつも、皆から可愛がられて素直な子だった。

そんな妹の口ぐせは、大きくなったらお姉ちゃんみたいに強い女の人になるんだ、だった。

何も私のように強気で嫌な女にならないでいいのに。そのままの素直で可愛い子のままでいてほしいと思った。

母親も妹がいる内は暴力を振るわなかった。

そんな妹は、病気がちなため、4才という若さで亡くなった。肺炎をこじらしたためだった。

ここはそんな妹の部屋だ。

今はだれも、この部屋で暮らしていないが、リツはよくこの部屋に
くる。

ここに居ると、精神が安定するからだった。

思い出に浸っていると、ドアをガリガリと引つ掻く音が聞こえた。

ドアをあけると、ミニチュアダックスフントが一匹すわっていた。

名前はアイ。妹と同じ名前だ。母親が妹が死んだのがあまりにも悲
しく、妹の代わりに飼い始めた犬だった。
性格も妹に似ていてひとなつっこい。

そのアイをだきあげると部屋の中へ連れていった。

お前はのんきでいいよな。生きてて楽しいか？

そんな事を話かけても、首をかしげてみるだけで返事はない。
まあ当たり前だな。

はあゝ・・・こんな日常なんてつまらない。
生きている意味なんてないように思えてくる。

そんな事を考えながらリツは寝てしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5519h/>

ワンダフルガール

2010年12月5日05時51分発行